

【水の里の旅コンテスト 2021 応募企画】

【一般部門】 応募者名：前田 奈帆子

【タイトル】	全身で体感する仁淀ブルー		
【サブタイトル】	～仁淀川流域の暮らしと食、自然と文化を巡る旅～		
【都道府県名】	高知県	【地域名】	仁淀川町・越知町・日高村・いの町
【日程】	<input type="checkbox"/> 日帰り ・ <input type="checkbox"/> 1泊2日 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 2泊3日 ・ <input type="checkbox"/> その他 ()		
【実施時期】	<input checked="" type="checkbox"/> 春 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 夏 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 秋 ・ <input type="checkbox"/> 冬 ・ <input type="checkbox"/> 通年 / (実施時期：)		
【催行人員】	2名 (最小催行人員： 名)	【お勧めする旅行者層】	ある程度体力のある若年層～中年層
【旅行代金】	72,000円 (大人1名)	【代金内訳】	1日目：交通費 9,140円 (空港シャトルバス 740円＋ハイヤー)、中津溪谷ガイドツアー 1,500円、 1泊2食 20,400円 2日目：キャニオニングツアー 8,500円、 交通 14,000円 (ハイヤー)、1泊2食 13,000円 3日目：交通費 1,800円 (バス 450円、路面電車 610円、 空港シャトルバス 740円)、紙漉き体験 400円、 紙の博物館入館料 500円 1～3日目その他 2,760円 ※交通費など全て、2名参加時の1名あたり換算額です ※「その他」は、宿泊施設以外での食事の概算です
【企画趣旨 (伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント)】			
<p>国土交通省による水質調査結果で何度も「水質日本一」に選ばれている仁淀川は、透明度が高いため水面と川底が青く輝く「仁淀ブルー」の愛称でも親しまれています。</p> <p>今回は、特に人気のある観光地のうち「中津溪谷」を中心に、様々な角度から仁淀川を楽しんでいただきます。</p> <p>1日目は、中津溪谷の遊歩道を歩いて観光し、雨と川の流れて造られた溪谷美を堪能します。地元の木材を使った宿のこテージは、やさしい木の香りに包まれ大変癒されます。</p> <p>2日目は、水を被りながら全身で中津溪谷を楽しむキャニオニングツアーでスタート。より身近に川を感じたところで、大渡ダムといったインフラの見学を通し、水資源の活用や保全について学んでいただきます。</p> <p>また、道中で特産の沢渡茶や地元食材を味わったり、生活に密接に関わる沈下橋を見学したりしながら、食と文化についても体感していただきます。</p> <p>宿の大浴場は、仁淀川の伏流水を薪を使って沸かしており、自然に触れる楽しさと癒しの両方を贅沢に味わいながら旅の終わりにむけて心身を整えていきます。</p> <p>最終日は、仁淀川流域で古くから行われている土佐和紙づくりを、展示物の見学と実際の紙漉きで体験し、土佐の伝統工芸品にも思いを馳せていただきます。</p> <p>(満足ポイント)</p> <p>①様々な事情により現地で車を運転できない方でも、気軽に絶景を楽しむことができる</p> <p>②こだわりのある宿で、非日常を満喫できる</p> <p>③川とそこに息づく人々の生活、食、文化を体感することができる</p> <p>④仁淀川のダム (インフラ) について学ぶことができる</p>			

- ⑤映画のロケ地、舞台のモデルとなった場所の散策を楽しむことができる
- ⑥キャニオニングツアーでは動画や写真、紙漉き体験では自分で漉いた紙を持ち帰ることができ、思い出を形にして残すことができる

【インバウンド対応のための工夫】（※任意）

「一般社団法人仁淀ブルー観光協議会」のホームページは、英語・中国語（繁体・簡体）で表示することができるため、事前に詳細を調べていくことが可能です。
 なお、仁淀ブルー観光協議会の事務所に併設の「仁淀ブルースクエア」は、JNTO 認定外国人観光案内所「カテゴリー1」に認定されています。

「NIYODO ADOVENTURE」は、日本語、英語、フランス語の3言語で対応が可能です。

【 催 行 実 績 】

※当該企画が催行されている場合や、催行されている別企画を元に一部変更したものの場合は有に☑してください。

- 有 → いつ催行されましたか：
 ※募集ホームページアドレス（ある場合のみ）：
 無 → 今後の催行予定はありますか： 有 → いつごろ催行予定ですか：
 無

【 特 記 事 項 】

- ・仁淀川とその流域について多くの方に知っていただくこと、また実際に訪れていただくことで、中山間地域の産業の活性化につなげていきたいです。
 - ・県下の公共交通を多くの方に知っていただくことで、コロナで打撃を受けている地元交通会社の活性化にもつなげていきたいです。
- <ご協力いただいた交通会社>
- 株式会社高知駅前観光・・・空港シャトルバス
 とさでん交通株式会社・・・空港シャトルバス、路面電車
 株式会社県交北部交通・・・バス
 土佐ハイヤー（株）・・・1日目（高知駅～中津溪谷 ゆの森）
 （有）明神ハイヤー・・・2日目（中津溪谷 ゆの森～道の駅 土佐和紙工芸村「くらうど」GRAUD）
- ・本件は、旅行会社等によるパックツアーではなく、パックツアー風個人旅行の提案になるため、目的地・施設によっては、参加者自らが事前予約や確認が必要です。
 - ・今回、画像提供等の際し、仁淀川流域の自治体、観光協会、施設など多くの皆さまのご協力をいただきました。

【エントリーシート 別紙】

【 行 程 表 】

<p>1日目</p>	<p>約 25 分 約 1 時間 30 分 約 1 分 高知龍馬空港 ***** 高知駅 ===== 中津溪谷 ゆの森温泉 : : : : : 15:00~16:00 約 1 分 中津溪谷ガイドツアー (約 1 時間) : : : : : 中津溪谷 ゆの森温泉 (泊)</p>
<p>2日目</p>	<p>約 1 分 8:20~11:20 中津溪谷 ゆの森温泉 : : : : : Niyodo Adventure キャンピングツアー (約 3 時間) 約 1 分 12:00 約 10 分 12:10 : : : : : 中津溪谷 ゆの森温泉 ===== 茶農家の店 あすなろ (昼食/休憩) 約 6 分 13:30~14:30 約 30 分 約 20 分 ===== 大渡ダム見学 (約 1 時間) ===== 浅尾沈下橋 ===== 約 5 分 16:00 名越屋沈下橋 ===== 道の駅 土佐和紙工芸村「くらうど」QRAUD (泊)</p>
<p>3日目</p>	<p>約 2 分 9:58 道の駅 土佐和紙工芸村「くらうど」QRAUD : : : : : 岩村 (バス停) 約 12 分 10:10 約 1 分 ***** 公園町 (バス停) : : : : : いの町紙の博物館 (紙漉き体験約 30 分、 約 10 分 12:01 約 4 分 12:05 施設見学約 30 分) : : : : : 伊野 (路面電車電停) ##### 北内 (路面電車電停) 約 2 分 約 2 分 13:29 : : : : : レストパークいの (昼食/買物) : : : : : 北内 (路面電車電停) 約 42 分 14:11 約 20 分 ##### デンテツターミナルビル前 (路面電車電停) ***** 高知龍馬空港 マークの説明 : === ハイヤー *** バス ### 路面電車 : : : 徒歩</p>

【主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来、土産物など）】

ポイント1



(画像提供：一般社団法人 仁淀ブルー観光協議会)

【中津溪谷】

中津溪谷は、県立自然公園にも指定されている人気の仁淀ブルースポット。紅葉の名所としても有名で、秋には燃えるような紅葉と透き通るブルーのコントラストが絶景を作り出す。

川沿いには、全長約 2.3 キロの遊歩道が整備されているが、大きな岩を縫うように進み、石橋で川を幾度も渡るなどしていると、まるで神話の世界に迷い込んだような気分になる。

溪谷の奥にある落差 20m の神秘的な「雨竜の滝」は、遊歩道によってその姿を間近で見ることができるようになっている。

ポイント2



(画像提供：仁淀川町)

【中津溪谷 ゆの森】

中津溪谷の自然に囲まれたくつろぎの宿。

コテージは、仁淀川町産の杉や桧がふんだんに使われた贅沢なお部屋で、やさしい木の香に包まれる癒しの空間となっている。

宿泊専用のレストラン内は明るく、オープンキッチンになっており、溪谷入口周辺がパノラマのように一望できる。

夕食では、地元食材を使ったシェフこだわりのフレンチや和食が提供され、四季折々、旬ならではの美味しさを楽しむことができる。

天然温泉の泉質は、アルカリ性単純硫黄冷鉱泉。様々な効能が期待でき、身体の芯まで温めてくれる。

ガラス張りの大浴場や露天風呂では、大自然の景色とともに入浴を楽しむことができる。※

※週替わりで、男女が入れ替わります



(画像提供：中津溪谷 ゆの森)



(画像提供：NIYODO ADVENTURE)

【NIYODO ADOVENTURE (仁淀アドベンチャー)】

国内外で経験を積んだガイド歴10年以上のアウトドアガイドとともに、キャニオニングやパッキングなどを楽しむことができるアウトドアカンパニー。

Niyodo Adventure は、代表のヒロさん（日本人）とパートナーの Zoé さん（フランス系カナダ人）で構成されており、日本語、英語、フランス語の3言語での対応が可能。幅広いニーズに応えられるため、多くの人々に仁淀川上流の美しい渓谷や川、その迫力や美しさを知ってもらうことができる。

なお、今回紹介しているキャニオニングツアーは、ロープを使って崖を降りていったり、急流の中を泳いで進んだり、高いところから水に飛び込んだりしながら渓谷内の急流、滝を探検していくものである。

【茶農家の店 あすなろ】

国道33号線のほとりに生まれた新しいカフェ。仁淀川町で栽培されている「沢渡茶」をはじめ、茶葉や地ものを贅沢につかった料理やスイーツを提供している。

各席には茎茶（くきちゃ）を乗せた香炉が置かれ、ふんわりとお茶の香りが漂うという粋な演出が施されている。お水の代わりに季節にあわせたお茶が提供される。

看板商品の「あすなろ御膳」は、沢渡茶や山菜、こんにゃくなど、仁淀川町の美味しい地の物がありだくさんの、お山のごちそうランチ。天気が良ければ、解放感抜群のテラス席でいただきたい。

店内には、沢渡茶だけでなく仁淀川町の美味しいお茶も取り揃えられており、お土産として購入することもできる。

スムージーやラテ、ソフトクリーム、ワッフルはテイクアウトも可能。

車で数分走れば、茶畑を見ることがもできる。

(「高知家の〇〇」より一部抜粋)



(画像提供：茶農家の店 あすなろ)



あすなろ御膳 (画像提供：茶農家の店 あすなろ)



(画像提供：大渡ダム)

【大渡（おおど）ダム】

仁淀川流域は、日本でも有数の温暖多雨地帯であると同時に台風の常襲コース。昔から数々の大洪水に見舞われ、各地に被害を受けてきた。そんな仁淀川をより安全で有効に利用するために、昭和43年工事に着手。洪水調節、かんがい・水道用水等の補給や発電をも考えた多目的ダムとして計画され、昭和61年度に完成した。平成16年、度重なる台風被害により大量の流木が流れ着いたことをきっかけに、網場にたまった流木の有効活用が検討され、平成17年に炭焼き窯「茶霧窯」が完成。茶霧窯で作られた“茶霧炭”は地域の祭りや施設のイベント等で使用されている。



(画像提供：越知町)

【浅尾（あそう）沈下橋】

越知町鎌井田地区にある全長約121mの沈下橋。周囲を山々に囲まれ、対岸にある鎌井田集落と橋とのコントラストが美しい。夏にはアユ釣りを楽しむ釣り人たちが賑わう。浅尾沈下橋は、映画『県庁おもてなし課』や『君が踊る、夏』のロケ地、また、『竜とそばかすの姫』の舞台のモデルにもなった。なお、沈下橋とは、堤外地に設けられる橋で洪水時には橋面が水面下になる橋のこと。現在も住民の生活道として利用されている。



「西の谷第二」バス停

【名越屋（なごや）沈下橋】

仁淀川の本流にかかる6本のうち、最も下流にある日高村といの町を結ぶ沈下橋。高知市内から最も近い沈下橋でもある。現在も住民の生活道として利用されており、カヌーなどが通過するのを見ることができる。

名越屋沈下橋は、仁淀川にかかる沈下橋としては最長の橋でもあるが、車の交通量が比較的多いため、待避所が4ヶ所設けられている。最寄りのバス停「西の谷第二」は、映画『竜とそばかすの姫』の舞台のモデルになった。



(画像提供：道の駅 土佐和紙工芸村「くらうど」QRAUD)



(画像提供：道の駅 土佐和紙工芸村「くらうど」QRAUD)

【道の駅 土佐和紙工芸村「くらうど」QRAUD】

土佐和紙工芸村 QRAUD は、いの町にある「道の駅」。「道の駅」として、地域交流の場としての役割を果たしながら、県内外から訪れるお客様への体験型観光拠点としての施設づくりを目指してきた。

施設内にはレストランの他、古い蔵を改装したギャラリー、産直市、土佐和紙の紙すき体験場、周辺観光の拠点として利用できる宿泊棟などもある。

夕食で楽しむ土佐厳選食材の創作フレンチフルコースは、食通達にも大好評。

仁淀川の伏流水を使用し薬草をブレンドした薬湯や大浴場は、仁淀川流域の間伐材を薪にしてバイオマスボイラーで沸かしており、地産地消、CO2削減に取り組まれている。



(画像提供：いの町紙の博物館)



紙漉き体験 (画像提供：いの町紙の博物館)

【いの町紙の博物館】

いの町紙の博物館では、土佐和紙 1000 年の歴史や原料から土佐和紙ができるまでの工程をパネルや現物でわかりやすく展示している。職人による伝統の技法「流し漉き」の実演、色紙やはがきを作ることができる「紙漉き体験」が人気。施設内の売店では、絵画・版画・美術工芸用などの土佐和紙をはじめ、各種紙製品を購入することもできる。

(「よさこいネット」より一部抜粋)



【レストパークいの】

レストパークいのは、「高知」と「おいしい」にこだわり、「おいしい！は土佐の國から。」をテーマに高知のおいしいものを取り揃えている。地元農家の「新鮮産直野菜」、季節ごとの高知の「旬の果物」、丁寧に育てた「花と苗」、味が自慢の「手づくりおふくろの味食堂」を併設。県内各地、有名どころの地場産品が充実しており、旅の締めくくりとしてショッピングを楽しむことができる。



(画像提供：中津溪谷 ゆの森)

【仁淀ブルー】

高知県のほぼ中心を流れる仁淀川は、西日本最高峰の石鎚山に源を発し、124kmに渡って土佐湾に流れ着く高知県の3大河川の一つ。

国土交通省が発表する「水質が最も良好な河川」に過去10年で8回も選ばれている。

そのリゾート地の海辺を思わせるような透明な水色やエメラルドグリーンとも呼べるような「青」の美しさをネイチャーカメラマンの高橋宜之氏が「仁淀ブルー」と呼び始め、その名が知られていったと言われている。

仁淀川流域には“仁淀ブルー”を体感できる渓谷やスポットがいくつもあり、多くの人を惹きつけている。

(「NIYODO BLUE!」より一部抜粋)



中越家のしだれ桜 (画像提供：仁淀川町観光協会)

【仁淀川町の桜、花桃】

仁淀川町には、ひょうたん桜や中越家のしだれ桜、市川家のしだれ桜など、桜の名所が点在している。

ひょうたん桜は、樹齢約500年。樹高21m、根元廻り6m、県の天然記念物にも指定されている桜の古木である。

中越家のしだれ桜は、樹齢約200年。旧庄屋の中越家は、かつて佐川領主の深尾公の休憩地で、桜の名所である市川家より桜木を植栽した。

江戸時代に関所番だった市川家のしだれ桜は、樹齢70年。かつて市川家には樹齢300年の美しい先代のしだれ桜があったが、現在の桜は先代桜の孫に当たる(子は中越家のしだれ桜)。秋葉まつりの前夜に御神体も一夜を過ごされる由緒ある場所である。

新名所として15年かけて育てられた上久喜(かみくき)の花桃は、ひょうたん桜の後に楽しめるが、白やピンクの愛らしい花が里山を埋め、見事な風景をつくる。



上久喜の花桃 (画像提供：仁淀川町観光協会)



(画像提供：茶農家の店 あすなろ)

【沢渡茶（さわたりちゃ）】

沢渡茶が栽培されているのは、仁淀川町の沢渡地区。仁淀川が長い年月を掛けて作り出した渓谷の急斜面に茶畑が広がっている。

かつて高知一の生産量を誇ったこともあるが、様々な要因で時代と共に後継者が減少。茶農家を祖父に持つ岸本さんは、茶畑の風景と伝統の沢渡茶栽培を絶やすまいと奮起し、沢渡茶の栽培・加工・販売を手掛ける「ビバ沢渡」を設立した。

また、沢渡茶の魅力を一人でも多くの方に伝えるため「茶農家の店 あすなろ」を仁淀川町に、「CHA CAFE ASUNARO」を高知市の高知蔦屋書店にオープンさせている。

優しい味わいでありながら、口当たりがスッカリしている沢渡茶は、代表的な土佐茶のひとつとして大変人気である。

(高知銀行「千客万来おきゃくブログ」より一部抜粋)



典具帖紙むら染 20色 (画像提供：いの町紙の博物館)

【土佐和紙】

福井県の「越前和紙」、岐阜県の「美濃和紙」とともに三大和紙産地として有名な高知県の「土佐和紙」は、約1000年以上前には製造されていたと考えられている。

清らかな仁淀川の水が育む紙漉きの文化は、古くは平安時代にまで遡り、『土佐日記』で有名な歌人紀貫之は、土佐の国司として紙づくりを奨励したともいわれている。

土佐七色紙が創製され、江戸時代、幕府への献上品として藩の保護を受けたことから、土佐の主要な特産品として土佐紙の名は広く知られるようになり、明治時代には、土佐紙業界の恩人と称される吉井源太が典具帖紙（てんぐじょうし）・三極（みつまた）改良半紙などを考案すると同時に、製紙用具の改良に力を注ぎ紙業発展の基礎を築いた。

別名「かげろうの羽」ともいわれる「土佐典具帖紙」は非常に薄く、その厚さはなんとわずか0.03～0.05mm。手漉和紙の中でも最高級品で、古文書や彫像など文化財の修復にも使われている。